合理的意思決定力を育む小学校社会科授業

―『正義』を手がかりとして―

南長良中学校

　　　　　　　　　稲垣　〇△

１．　経験主義社会科誕生以前の社会科教育について

(1)　戦前の社会科教育を担う教科について

　社会科は昭和22年（1947年）9月に誕生した。それまでに社会科という教科は存在しなかった。なぜ，社会科は誕生したのか。以前は社会的な学習はどのように行われていたのか。なぜ，以前のままの科目ではいけなかったのか。

　まず，始めに考えなければならないのは，戦前の社会科教育（社会生活における諸事象の理解や，社会が求める人の育成のための教科）にはどのようなものがあり，どのような特徴があったのかという問いである。戦前の社会科に関連するような内容を取り扱う教科としては「修身科」「日本歴史科」「地理科」の3教科が存在した。

この3教科では，どのような教育がされていたのかを以下に述べる。

①修身科

修身は戦前の初等教育及び中等教育においての道徳教育のための教科目である。修身の語源は中国の古典『大学』（注：大学とは儒教の経典のひとつで，倫理学（規範）を指す。）の冒頭に当たる「身を修め家を斉える」に由来している。

内容は孝悌，友愛，仁慈，信実，礼敬，義勇，恭倹である。この7つの内容は儒教道徳に基づいている。この内容を扱うことで，徳目の養成を目指した。

1890年に発布された「教育勅語」以降は尊王愛国の士気の養成が重視されるようになる。そのため，修身が重要視されていく。

このような教科の特徴を持つ修身ではあるが，時代によって内容に変化が見られ，それぞれの特徴がある。時間軸にそって修身科を見て行く。

・第1期・・・1872～1879年（明治5年～明治12年）

1872年の学制で初めて修身という教科が下等小学校において掲げられる。授業は教師の談話によって進められた。教師向けの教科書は西洋市民道徳を説いた欧米の書物が翻訳され用いられた。

・第2期・・・1879～1890年（明治12年～明治24年）

「教育令」に伴い各教科の筆頭として掲げられ，重要な教科として位置付けられる。文部省から新たに指導書が発行され，内容は仁義忠孝を中心とする儒教思想であった。またこの時代に教科書の検定が行われ，従来の欧米の翻訳書は不使用となった。教育方法は従来同様，教師の談話によるものであった。

・第3期・・・1891～1904年（明治24年～明治37年）

1890年に発布された「教育ニ関スル勅語」に基づいた道徳教育が徹底される。また，この時期において，修身教科書の規準が定められ，児童用教科書が発行され，用いられるようになる。この時代の教育方法に変化が見られる。従来と異なり，教えるべき徳目を掲げた上で，これを説明するための教訓・格言・例話等の教材が配列されそれらを熟読・暗唱する授業が行われた。また，発達段階に即して教材を変えながら徳目を繰り返し教え，児童生徒に身につけさせた。教材は挿絵を入